

第4回市民総参加のまちづくりサロン会議録

平成19年7月30日

午後7時～8時30分 イルフプラザカルチャーセンター

第1、2多目的ホール

市民参加者 22人

市側参加者 7人

■開会

■岡谷市民憲章唱和

■小坂主幹：(前回どんな話し合いが行われたか、5分ほどで簡単に説明)

■意見交換：前回に引き続き、グループに分かれて進行。

テーマ「健康・福祉・子育てなどについて」→希望者4人

「環境・ごみ・景観などについて」→ 9人

「街の賑わい、活性化などについて」→ 9人

○健康・福祉・子育てなど (参加者4人)

★まちづくりについて、まだ行政をたよっている。行政まかせ。

福祉も自分で行動を起こして踏み出せばいい。

・前回の「あやめ基地」の活動を他の地域に広めていくにあたって、行政がPTAや保護者を教育し、自分たちで活動できるようにしていけばいい。

・何かあった時の責任の部分が問題となる。

当番制にするのも、人まかせにせず自分たちでやっているという気持ちにさせるため。それだけ責任を背負うことになる。

○ 病院統合関係

・統合後の病院ベット数は6割の300床にするというが、余裕をもって350床にしたらどうか。

→診療報酬の関係がある。300床だとベットの回転がよいということもある。

脳出血は180日しか入院してられないとなっているが、見直され始めている。

外来より入院の方が病院としてはもうかる。

・日赤を2週間で退院し、リハビリは違う病院で行う。(病診連携)

・産婦人科が岡谷は少ない。(岡谷だけではないが…)ぜひ残してほしい。

・今病院は「包括」になっている。例えば、盲腸になったとすると、盲腸の治療が決まっているので、やたら検査ができなくなった。

- 予防医療をしていくことが重要。
 - ・厚生労働省の指示でもある。
 - ・健診（検診）を受けて、早期発見できれば、以降の治療費も安くなる。啓発（宣伝・PR）が必要。
- 小学校の通学区について
 - ・マリオ周辺の子どもが長地小学校へ通っている。田中小の方が近いのでは。他の地区も通学区が入り組んでいるところがある。
 - ・通学区について、兄弟関係や昔からの流れで、途中で変更ということが難しい。
- 保育園・幼稚園について
 - ・岡谷保育園、上浜保育園がなくなった。「ヨゼフ」では多くは2歳で入園する。そういう人が優先されるため、3歳で入りたくても1人程度しか枠がない。これは考えなくてはいけない。
- 子どもたちの様子
 - ・通学途中「みまもり隊」で子どもを見ていると、以前より子どもからのあいさつがある。続けることで浸透していくと思う。
 - ・今の子どもは小さい子との遊び方がわからない。世代間交流ができていない。昔は兄弟も多かったから自然に遊べた。もっとふれあっていかななくてはいけない。
 - ・何かあるとすぐ親は学校に言っていく。根性のない子が多い。たくましい子どもに育てないと、これからの岡谷は・・・。

○環境・ごみ・景観など（参加者9人）

- ごみの減量について
 - ・市民サイドから具体的な提案が必要。現状だけを話し合っても何も始まらない。
 - ・ごみをエネルギーとして考えたらどうか。
 - ・諏訪湖浄化の時のように市民からごみ減量に関して公募し、意識を高めるのはどうか。
 - ・今始めることが大切で、目標が必要。日本でごみが出る量が一番少ないまちをめざすなど・・・。
 - ・ごみを減らす理由とメリットが必要。理屈や理論を言っても難しい。
 - ・ごみ減量のモデル地区の成果はあったのか。全市で進めたらどうか。進めるための目標と組織（母体）作り、区分け（地区）は重要である。
 - ・我々がごみ減量の組織づくりや地区の区分けを考えることがいいのか。議員さんのような人が推進母体の中心になってもいい。
 - ・ごみ減量のプランを市に提出するのは可能か。エコライフ岡谷がごみ減量を考える団体だと思うが、具体的に減量を進めるのは難しい。
 - ・家庭の状況把握という意味で、子どもたちの夏休みの宿題として、家庭のごみチェック

クはどうか。いいアイデアがでるかもしれない。

- ・手っ取り早く減量するには有料化である。
- ・生ごみを出さないとごみは半分程度になるのではないか。またこれからはごみを買わないことを徹底する必要がある。
- ・愛知県の田原市はごみ減量が進んでいる。民間の会社がごみを炭にして燃料としていた。ごみ処理に民間の力を使うことも考えたらどうか。
- ・ごみの再利用をより推進する必要がある。
- ・今まではごみ減量を住民が考える機会がなかった。
- ・焼却施設は必要だが、可能な限りごみを減量するシステムを考える必要がある。施設の検討と同時に進行する必要があるのではないか。
- ・今計画している施設は可燃ごみ 30%の減量を前提としている。市民が全て分別してくれれば 20%でいい。処理費用は今よりかかる。今のまま施設を建設しても焼却しきれない。
- ・ごみ減量が必要なことを知っている市民が少ない。周知が足りないと思う。市で一人当たりの減量目標を宣言したらどうか。
- ・市で言うだけでは進まないのではないか。市民が考え進めるための組織が必要。衛生自治会は頼りになるか。

○ 環境について

- ・昨日、釜口水門付近のアレチウリ除去を行った。組織的な参加が多く、自発的な個人の人が少ないのが残念である。もっと環境に関心を持ってほしい。日本のコイがアメリカで害魚となっているという問題もある。
- ・アレチウリを知ってもらい、散歩の途中で抜いてもらう活動はどうか。川岸地区では川沿いから山に広がっている。
- ・興味のない人に参加してもらいたい方法はないか。茅野市では大きなアレチウリを駆除した人に商品を出した。
- ・子どもたちにアレチウリを見てもらい、普段から意識して駆除してもらいたい方法もある。
- ・子どもの頃から環境についてPRすることが大切。大人でアレチウリを知らない人も多い。
- ・天竜川をうなぎが遡上するような活動もしていただきたい。中川村にやながあり、うなぎが取れる。
- ・下水道は流せばいい感覚である。なるべく汚さないで流すことが必要ではないか。
- ・廃油で作った石鹼で靴を洗う授業がある。地道な活動が大切。一般の市民にそんなことを伝えるのが難しい。
- ・言い意味で環境が悪くなっているというPRが必要で、今からもったいない運動や節約運動はできるか。少し前に「物を大切に作る運動」があつて盛り上がったが、続けるのは難しい。

○ 次回は・・・

- ・ 昨年出ていない話もあり、もう少し議論を深めたい。

○街の賑わい、活性化など（参加者9人）

中央通の活性化について

- 中央通にどんな店（生鮮、食料品）が増えればよいのか？
 - ・ 商業者に何を求められているのかをつかみたい。
 - ・ 若い人よりも年寄りをターゲットにすべき
 - ・ アピタなどにはお年よりは少ない。
 - ・ 量販店は、対面売りではないが、小売店は対面売りであり、今はそうした対面売りが敬遠されているのではないか。
 - ・ 中央通だけでおかポンのような、ポイントカードを作ってはどうか
 - ・ 店舗の種類を増やすべき、昔はレコード店、本屋などもっとさまざまな店があった。
 - ・ 下諏訪の三田町では手作りの店や飲食店を入れて少しずつ変わってきている。
 - ・ マンションができてきたので、その住民の方にお届けサービスなどはどうか。
 - ・ 商業者と生活者（利用者）の間での議論がない。
 - ・ お客さんや店主などが集まれる基地のようなものを作って、交流の場にしたい。
 - ・ 商業関係の横のつながりが不足している。
 - ・ スカラ座などは中央町の立体駐車場を利用した場合には、入場料を割り引くなどしており、歩く人の流れを作り出している。人の流れを作り出すような工夫や努力が必要ではないか。
- おかみさん会の活動は？
 - ・ 約40人の会員がいるが、それぞれに温度差があり難しい面がある。
 - ・ イベント企画などは会だけでやっていくのは難しい。
 - ・ 会員が高齢化してきており、後継者問題。
- 空き店舗について
 - ・ 中央通の空き店舗は、新たに入ってくる人がいない。
 - ・ 一回下ろしたシャッターは、再び開くことがない。
 - ・ 閉店した建物の場合、土地と建物の所有者が違う場合や、さらには使用者が異なるなど、権利関係が複雑なケースも多いようで、中には建物が壊れるのを待っているケースもあるようだ。
 - ・ 中央通のような長い区間の商店街が成り立たなくなっているのではないか。
- その他

- ・ 最近マンションを建設した業者から、岡谷に作った理由を聞いたが、岡谷市は公共施設の集積度が高いといわれた。
- ・ 自分たちが気づいていない魅力が、岡谷市にもあるのではないか。
店から店に歩いて見たくなるような個性のあるまちづくりが必要。

(8時20分～、3グループの代表が話し合いの内容を1分ほどで発表。)

■小坂 第5回サロンは8月30日(木)に、イルフカルチャーセンター第1多目的ホールで、午後7時から行う。

(終了 8時30分)